

第 章

社 会 的 活 動

第 章 社会的活動

第 1 節 社会的活動への取り組みについて

1．社会活動についての位置付け

本学では社会活動を極めて重要視している。大きな意味での社会活動は、演奏会、コンクール審査員、各種学会の委員、論文査読者、編集者が挙げられる。この他にも、著書・学術論文の公表もまた社会に対しての知的貢献と言える。これらはすべて本学の社会的責任の説明としての重要な広報となる。しかしながら、すべてを社会活動として一括する事は、今後、「専任教員研究業績 自己点検・評価報告書」を公表するにあたり混乱を招く恐れがある。そこで、学外組織において、もしくは学外に対して行う組織的活動として人的貢献をする活動を社会活動としている。また本学は音楽教育に特化した教育機関であることから、直接演奏に従事する活動は、演奏活動として社会活動と区別している。

社会活動を通じて、社会に貢献することは高等教育機関に所属する教員として極めて重要な業績である。しかしながら、その活動状況は公表していない。

2．社会活動の現状と今後の取り組み方針

大学、殊に短期大学は社会に直結した教育を期待されている。それである以上社会と密接に関わり合うことは当然必須であろう。本学に於いても、学生の社会活動をカリキュラム上からも支援する体制をとっており、社会活動特別実習として単位を認定する制度がある。また、教員の研究成果や授業のエッセンスを地域社会へ開放する大学開放講座およびそれに類するものを近隣の自治体などで開催している。また、学内で催される各種の演奏会や特別講義などは一般にも開放しており、近隣の住民の中には常連とでも言うような熱心なファンが生まれてきている。

しかしながら、音楽大学という特殊性（学生が自己の専門の研鑽に忙しい）から、学生が社会活動に割く時間がそれほど多くないことも現実である。大学としても学生が学外での活動にエネルギーをそがれて学内での学修に支障を来すことは避けねばならない、という二律背反的な状況を考慮した上で今後を考えてゆくべきであろう。

教員による大学開放講座や学内に於ける学生や教員の演奏会、特別講義などは今後とも拡大、継続する予定である。

3．本短期大学における社会人の受け入れと生涯学習の位置づけ

社会人の受け入れについては、働きながら学ぶという勤労学生的側面、現役を引退したシニアあるいは子育てを終えた主婦など、かつて果たせなかった夢の実現という側面、現役で活動しながらその専門のスキルアップのための学習等位側面、という3つの側面があると考えられる。

についてはこれまでも例があり、奨学金貸与の際に考慮するなどの方策はとられてきているが、システムとして確立されたものはなく、将来の課題である。については科目等

履修制度である程度カバーしてきたと考えているが、より本格的な在学生としてのあり方を望む層が増加していることが窓口などでの対応からうかがえる。このような社会人・シニア層が現役在学生と共にあることは現役学生にとっても良い刺激になることは、これまでの例からもはっきりしている。今後積極的に受け入れるシステムを確立するべきであると考えている。 については科目等履修生および各種の指導者研修会によりその機会を設けている。

また、短大専攻科は短大卒業生の専門スキルアップを目的としている側面が強く、現実に働きながら学ぶ学生も少なからず在籍している。

総じて社会人の受け入れにはゆとりのある時間割やカリキュラム編成が不可欠であり、長期履修の考え方を導入する必要がある。

4. 公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等

本学では本学が有する様々な機関、部署を通じて社会に対して広く公開する事業を行っている。短期大学の正規授業については科目等履修生制度以外に一般への公開は行っていない。ただし、内外からの著名音楽家などを招聘した学生対象の特別講義では、その内容や学生に対する教育効果等を考慮した上で学外聴講を可能とする場合もある。

公開講座

公開講座の 2002～2004 年度の開催状況を図表 70 に示す。また公開講座の一環として行われているオペラハウス公演の 2002～2004 年度の開催状況を図表 71 に示す。

図表 70、71 に示した本学および併設教育機関が実施した公開講座について以下にその詳細を開催部門別に示す。

- エクステンション・センターが行っているもの -

- ・音楽・心の旅（豊中市立中央公民館と共催）（公開講座）
- ・古今東西音楽考（大阪府立文化情報センターと共催）（公開講座）
- ・ミレニアムホール特別講座（レクチャーコンサート）（公開講座）

2000 年 9 月から毎年度 4 回開講している演奏を含めた公開講座。2006 年 3 月までで計 22 回を数える。

- ・大阪音楽大学カレッジ・オペラ講座（公開講座）

高校生を対象に声楽、コレペティ、演出家、指揮者などがオペラの基礎から指導し、オペラ出演を体験する講座。

- OCMが行っているもの -

- ・青少年のための名曲コンサート（公開講座）

大阪近隣から中国、北陸、東海地方などに出向き無料で演奏会を行っている。また、同時に小学生・中学生・高校生を対象に無料の公開レッスンを行っている。

- 博物館が行っているもの -

- ・ 博物館レクチャーコンサート（公開講座）

- 音楽院が行っているもの -

- ・ 公開演奏診断（公開講座）
ヴァイオリンの公開レッスン
- ・ 夏期セミナー（公開講座）

著名な演奏家や教育者を招聘し夏期休業を利用して公開レッスンや講演、演奏会など。

図表 70 2002 年度以降に開催された公開講座（2002～2004 年度）

2002 年度	
「本学主催」	開催回数
ミレニアムホール特別講座（レクチャーコンサート）	年 4 回（各 1 講座）
「本学と行政との共催」	
古今東西音楽考（大阪府立文化情報センターと共催）	年 1 回（6 講座）
公開講座フェスタ（HNS ネット主催）	年 1 回（2 講座）
おおさかふみんネット（大阪府立文化情報センターと共催）	年 1 回（2 講座）
音楽・心の旅（豊中市立中央公民館と共催）	年 1 回（5 講座）
音楽の宝石箱（高槻市立生涯学習センターと共催）	年 1 回（6 講座）
2003 年度	
「本学主催」	開催回数
ミレニアムホール特別講座（レクチャーコンサート）	年 4 回（各 1 講座）
「本学と行政との共催」	
古今東西音楽考（大阪府立文化情報センターと共催）	年 1 回（6 講座）
公開講座フェスタ（HNS ネット主催）	年 1 回（1 講座）
音楽・心の旅（豊中市立中央公民館と共催）	年 1 回（4 講座）
音楽の宝石箱（高槻市立生涯学習センターと共催）	年 1 回（6 講座）
2004 年度	
「本学主催」	開催回数
ミレニアムホール特別講座（レクチャーコンサート）	年 4 回（各 1 講座）
「本学と行政との共催」	
古今東西音楽考（大阪府立文化情報センターと共催）	年 1 回（6 講座）
公開講座フェスタ（HNS ネット主催）	年 1 回（1 講座）
音楽・心の旅（豊中市立中央公民館と共催）	年 1 回（4 講座）
音楽の宝石箱（高槻市立生涯学習センターと共催）	年 1 回（5 講座）

図表 71 2002～2004 年度に開催されたオペラハウス公演

年 度	公演回数
2002 年度	年 10 回（12 公演）（オペラのみ 2 回 4 公演）
2003 年度	年 11 回（13 公演）（オペラのみ 2 回 4 公演）
2004 年度	年 13 回（15 公演）（オペラのみ 2 回 4 公演）

生涯学習講座

図表 72 に 2002～2004 年度に行った生涯学習講座を示す。

図表 72 に示した生涯学習講座はエクステンション・センターが行っており、その詳細は以下のようになっている。

- ・指導者研修（ソルフェージュ、ピアノ、打楽器、指揮者、合唱指導者、吹奏楽指導者、邦楽）(生涯学習)
- ・サテライト・マスタークラス（生涯学習）

図表 72 2002～2004 年度に行った生涯学習講座

年 度	開催回数
2002 年度	指導者研修（7科目 12講座）
2003 年度	指導者研修（7科目 12講座）
2004 年度	指導者研修（7科目 12講座）
	サテライト・マスタークラス（2コース・年3回・各6講座）

5. 地域社会との交流

本学では所在地である豊中市や近隣都市との共催による公開講座や演奏会などを行い、それぞれ本学の音楽学教員を中心に、本学が有する様々な音楽ジャンルにおいて活躍する教員による演奏や講演を行っている（図表 70、71、72 参照）。

第 2 節 学生の社会的活動について

1. 学生による社会活動（地域貢献、ボランティア等）

地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等社会的活動の状況

学生自治会のクラブとして、音楽ボランティア おたまじゃくしがあり、また同好会として音楽ボランティア同好会がある。但し、活動状況については、活動報告がなくその状況は把握できていない。学生主体の地域活動(2002～2004 年度)について図表 73 に示す。

図表 73 学生主体の地域活動（2002～2004 年度）

年度	日 付	イベント	主催他	内 容
2002 年度	2002 年 8月3日	豊中まつり	豊中まつり推進会、 豊中まつり 2002 実行 委員会主催 / 大学は 協力	大阪音楽大学管弦 楽団が出演。
	2002 年 11月10日	久保惚ホール ミュージアム コンサート	久保惚ホール主催	各専攻から専攻基 準を経たソロ、ア ンサンブルのグ ループが出演。
	2003 年 2月1日	ふれあい コンサート	豊中市立第十中学校 区地域教育協議会 主催	大阪音楽大学吹奏 楽団が出演。
	2003 年 3月2日	バリアフリー コンサート	バリアフリー コンサート企画主催	大阪音楽大学管弦 楽団が出演。

2003 年度	2003年 1月24日	アフタヌーン コンサート	1月24日 柏原市民文化会館 リビエ - ルホール レセプションホール	サクソフォーン四 重奏、金管五重奏 が出演。
	2003年 8月2日	豊中まつり	豊中まつり実行 委員会主催 / 大学は協力	大阪音楽大学クラ リネットアンサン ブルが出演。また、 まつりプログラムの アンサンブルコン テストに大学教員 が審査員として 参加。
2004 年度	2004年 10月16日	ひったくり 撲滅市民 コンサート	豊中南警察署 / 大学は協力	オペラハウスで開 催。大学の吹奏楽 団とジャズアンサ ンブルが出演。
	2004年 11月27日	アフタヌーン コンサート	11月27日 柏原市民文化会館 リビエ - ルホール レセプションホール	木管五重奏、金管 五重奏が出演。

地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等について、及びその評価

2003年度から学生の積極的な勉学を応援し、優れた学業成果を賞する新しい奨学制度の一つとして音楽社会活動賞を設けている。この賞は、創造的な音楽活動や音楽を通じた継続的なボランティア活動を賞するもので、学生自身が書式に則り必要資料を添えて申請、審査を経て選考された場合は卒業式において学長から表彰状及び記念品を授与し、その功績が称えられる。また、授業による学修外の実地に於ける音楽活動が有効な学修活動である事を積極的に評価する目的から社会活動特別実習として履修、所定の申請手続をすることにより単位として認定も可能となっている。

第3節 国際交流・協力への取組み

1. 学生の海外教育機関等への派遣（留学＜長期・短期＞を含む）状況

2004年度から、在学生の短期留学に対する助成制度を設けており、審査の上、併設大学と合わせて2004年度2005年度各10名程度に助成を行っている。

2002年度から2004年度までの過去3年間の海外教育機関との交流の実績は無し。なお、2005年度より、韓国・啓明大学校 舞台芸術大学と交流を開始する。

2. 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

図表 74 に、2002～2004 年度における教員の海外留学・派遣状況を示す。

図表 74 教員（併設教育機関所属教員を含む）の海外留学・派遣（2002～2004 年度）

年度	時期（期間）	渡航先	所属 （専門）	目的
2002 年度	6月8日～6月18日	ウクライナ(キエフ)	ピアノ	演奏会出演
	12月8日～12月13日	フランス(パリ) /ドイツ	ピアノ	演奏会開催
	2月21日～2月28日	アメリカ (ニューオリンズ)	J P	研修
2003 年度	4月1日～ 04年4月3日	アメリカ (サンノゼ州立大学)	英語	長期海外研修 研究
	9月18日～9月30日	ドイツ	ピアノ	音楽活動 (コンサート他)
	10月26日～10月30日	ロシア(サンクトペ テルブルグ)	ピアノ	国際音楽祭出演
2004 年度	4月1日～ 05年4月3日	フランス(パリ・エ コールノルマル音楽院)	ピアノ	長期海外研修 研究
	8月4日～8月20日	フランス(ニース)、 ドイツ	声楽	研修(ニース夏期国際 アカデミー)
	9月4日～9月9日	中国(上海)	声楽	短期海外研修

J P : ジャズ・ポピュラー

特記事項

1. 高大連携

2003 年度から大阪府立池田北高等学校との間で高大連携の協定のもとに生徒を受け入れている。現在、聴講受け入れの科目「音楽史(世界と日本の音楽を考える)」に、毎年 10 名程度の生徒が本学において聴講している。今後も音楽科や音楽コースを開設している高校と意見交換などを積極的に行い、高大連携を推し進める。